

課題意識

- 学内における調査・照会等の多さ
- 欲しいデータがどこにあるのかわからない

調査・照会等の洗い出し

- どのような調査・照会があるのか文書管理システムから抽出

各照会の分析及び効率化の検討

- データレイク/データウェアハウスの導入
事務フローの調査

参加メンバーの困りごとを中心に、
バックオフィス連携の可能性を検討

■ ノーコード開発プラットフォーム*の活用

* プログラミングの知識なしで自分のアプリを作る
「組み立てブロック」のようなツール

▶ 基本情報等のデータ共有・連携によるデータの最大活用

- データ処理フロー（データ処理の自動化）
- データレイク/データウェアハウス（データの蓄積・共有）
- アウトプット（データ活用や再利用）
- ワークフロー（業務プロセスのデジタル化）
・・・本試行運用では未利用

デジタル三原則の実現

SGU調査をモデルに、データレイク
(JUST.DB) を活用したデータ連携の試行

成果

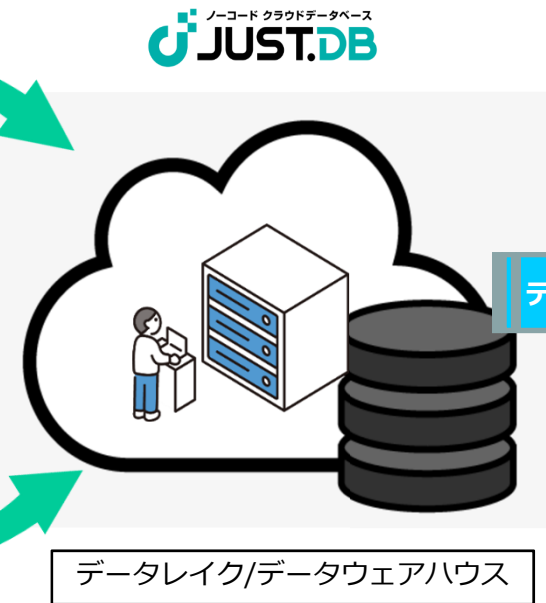
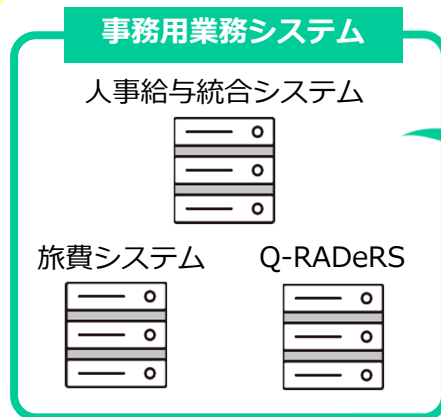
【実践的な取組】

研究者に係る Outbound/
Inbound の実績調査

「研究者の
Outbound/Inbound」の全体
像を把握・分析することで、
エビデンスに基づいた組織的
で戦略的な研究者交流の実現
を目指す（国際頭脳循環のハ
ブへ）。

将来的なシステム間のデータ
連携

- ◆ Q-HAT（財務部）
- ◆ Q-RADeRS（企画部）
- ◆ 人事システム（人事部）



成果

【実践的な取組】 SGU調査（試行）

- データ作成アプリを構築
- 業務手順や成果物等、他
の調査への展開・応用可
能性を引き続き検証

【活用例】

人事データ連携

事務局利用部署等
(企画・財務・学務部 他)



データ処理フロー